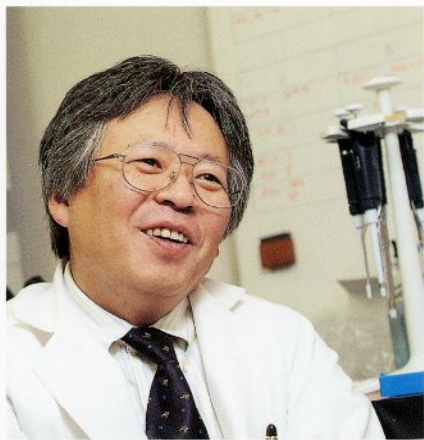


全国トップレベルの皮膚再生医療で、大学病院ならではの治療を

皮膚科 白方裕司 医師



PROFILE

しらかたゆうじ◎愛媛大学医学部・皮膚科学特任講師。1987年愛媛大学医学部卒業、医学博士。培養皮膚、表皮角化細胞の増殖と分化、遺伝子治療、再生医療などを専門に活躍する。趣味は磯釣り、一昨年60cmの石鯛を釣り上げた。

私は皮膚科学の中でも先天性表皮水疱症の治療を専門とし、培養皮膚を使った治療を行っています。先天性表皮水疱症は遺伝性の難病で、ちょっとした肌への刺激で表皮に繰り返し水ぶくれができる疾患です。これまで水疱症に対する効果的な治療法はなかったのですが、現在は培養皮膚移植が一番効果的とされています。培養皮膚を使った治療は、通常の皮膚移植をしても治りにくい患者様に対して、わずかな皮膚組織で大きい患部が治療でき、繰り返し移植できる低侵襲の治療です。愛媛大学の皮膚培養技術は世界でもトップレベルです。切手大の小さな皮膚片から、体全体を覆うほどの皮膚が培養でき、細胞の長期保存も可能で一度の皮膚採取で繰り返し移植ができます。当皮膚科には青森から治療に来られている患者様もい

らっしゃいますが、遠隔地の患者様には培養皮膚を冷凍して送ることも可能です。実際に東北大、京都大、旭川医科大などへは当病院で培養した皮膚を送っています。東海村の臨界事故では東京大から、美浜の原発事故の際は富山大から、当病院に皮膚培養の依頼がありました。

愛媛大学の再生医療は全国でも高いレベルを誇っています。しかし、水疱症を完治させるには遺伝子レベルの治療しかありません。これまでの研究を生かし、培養皮膚と遺伝子治療を組み合わせた、より良い治療法を研究中です。大学病院は一般の病院では治療できないような患者様に対して、治療法を考えたり、見つけたりすることが求められていますし、私も大学病院に勤める医師として、難病を抱えた患者様を助けることが使命だと考えています。

コミュニケーションを大切に、患者様にとって最良の治療を目指す

眼科 原 祐子 医師



PROFILE

はらゆうこ◎愛媛大学医学部附属病院・眼科助手。1995年愛媛大学医学部卒業。角膜上皮における感染免疫機構、および角膜上皮創傷治療、屈折矯正手術などを専門に活躍。学生時代はスキー部に所属。ストレス解消法は、友だちとおいしいものを食べて騒ぐこと。

私の専門は角膜移植、白内障手術、屈折矯正手術です。角膜移植の症例は当病院で年間50例以上。大橋、宇野、白石、山口、そして私の5人が角膜移植グループとして、治療にあたっています。以前はどのような疾患に対しても角膜全体を使う全層角膜移植を行うことが一般的でしたが、最近は培養角膜上皮移植や深層角膜内皮移植など、角膜の層を分けて行う新しい移植手術ができるようになりました。当眼科では全国でもかなり早い時期から先端の手術技法を取り入れ、術後の経過を含めて良好な実績を残しています。特に自らの細胞から培養した角膜を移植する、培養角膜上皮移植ができる施設は全国でも数カ所。当病院には四国はもちろん、中国、九州地方の病院の紹介で来られる患者様もいらっしゃいます。この手術によって、これまで諦めな

ければならなかった疾患が治療できるようになりました。この10年ほどで、角膜移植は劇的に躍進していますが、当病院の角膜移植における成績は、全国的に誇れると自負しています。

角膜移植は術後の拒絶反応や感染症の予防のため投薬を続ける場合もあり、様々なリスクを伴います。誰にでも移植を進めるのではなく、患者様にとって本当に必要な治療法を見極め、生活にあった視力の回復を行うために、私たちが最も大切にしているのはコミュニケーションです。患者様ご本人はもちろん、ご家族の方ともよく話し合い、視機能を良くするだけでなく、生活の質を向上させるために、ベストの治療方針をたてます。患者様が愛媛にいながら最高の治療を受けられるように、私自身も常にアップデートしていきたいですね。